

アジア14都市(+東京)「暮らしとお金」に対する意識調査

- 経済的な暮らし向きが改善し、今後に明るい見通しを持つアジア生活者。
特にデリー、ムンバイ、メトロマニラは明るい見通しを持っている。
- お金に対する考え方は、「毎月決まった額を貯金する」と「世の中お金で決まる」が全都市共通。東京では、7割超の生活者が「自分がもらう年金に不安」を抱いている。
- 資産形成として何らかの投資を行っているのは、香港、台北、ソウル、ムンバイで6割超。一方、10都市では「特に何もしていない」が5割を超える。
投資は大きく「株式」派、「宝石・貴金属」派、「家・土地」派に分かれる。

博報堂では、グローバル市場でのマーケティング戦略に活用するためのオリジナル生活者調査『Global HABIT(グローバルハビット)』を2000年より毎年、アジアと欧米の主要34都市で中・上位収入層を対象に実施しています。最新のGlobal HABIT調査のデータをもとに様々な角度から分析を行い、日本企業がグローバル市場で戦うためのヒントを全10回シリーズでご紹介します。2012年度調査データをオープンしましたので、今号からは最新2012年データで分析します。第7回レポートでは、アジア14都市生活者の「暮らし向き・お金に対する考え方・資産形成」について分析した結果をご報告いたします。(14都市) 香港、台北、ソウル、シンガポール、クアラルンプール、バンコク、メトロマニラ、ジャカルタ、ホーチミンシティ、デリー、ムンバイ、北京、上海、広州、 ※参考 東京

1. 暮らし向きの状況&見通し

経済的な暮らし向きの状況や今後の見通しについて5段階評価で聞いたところ、14都市中7都市で暮らし向きが「昨年より良くなった」と感じる生活者が5割を超え、14都市中13都市で今後の見通しが「良くなる」が5割を超えた。総じてアジア生活者は暮らし向きが改善したと感じ、今後に明るい見通しを持っている様子が伺える。特にこの傾向が強いのは、インド2都市(デリーとムンバイ)とメトロマニラ。一方、東京の生活者は、暮らし向きの状況が「良くなった」は1割程度、今後の見通しが「良くなる」は2割程度と、今回対象となった14都市に比べるとかなり低い結果となっている。

2. お金に対する考え方

お金についてあてはまる考え方などについて聞いたところ、「毎月決まった額を貯金」は北京以外の13都市で1位か2位で、「世の中お金で決まることが多い」は14都市全てでトップ5に入っておりこの2つは全都市共通と言えそうだが、3位以降は都市によって傾向が異なる。ちなみに、東京の1位は「自分がもらう年金に不安を感じる(75.1%)」で、2位以下を約25%以上引き離す結果に。アジア14都市平均の第1位は「毎月決まった額を貯金(56.7%)」。次いで2位「世の中はすべて金で決まることが多い(39.4%)」、3位「お金は命の次に大事な物(37.4%)」、4位「金融商品の良し悪しについて、自分なりに判断できる(32.4%)」、5位「クレジットカードを使うことに抵抗はない(32.3%)」。

3. 資産形成としての投資

資産形成のために行っていることについて聞いたところ、台北(95.0%)、ムンバイ(72.8%)、香港(70.1%)、ソウル(59.5%)の4都市では株式や宝石・貴金属などの投資を行っている生活者の割合が高い。一方、それ以外の10都市では「何もやっていない」がほぼ半数を超えているが、高い経済成長率を背景に、金融商品市場としてのポテンシャルを秘めているといえるだろう。なお、各都市の投資1位に注目すると3つのグループに大別される結果となった。

- ・「株式」派：香港、シンガポール、台北、ソウル、上海、北京、広州
- ・「宝石・貴金属」派：バンコク、ジャカルタ、デリー、ムンバイ
- ・「家・マンション・建物」「土地」派：クアラルンプール、メトロマニラ、ホーチミンシティ

また、中国3都市とインド2都市について、都市全体とパワー生活者(高収入層)を比較してみると、パワー生活者の資産形成が活発であることが分かる。

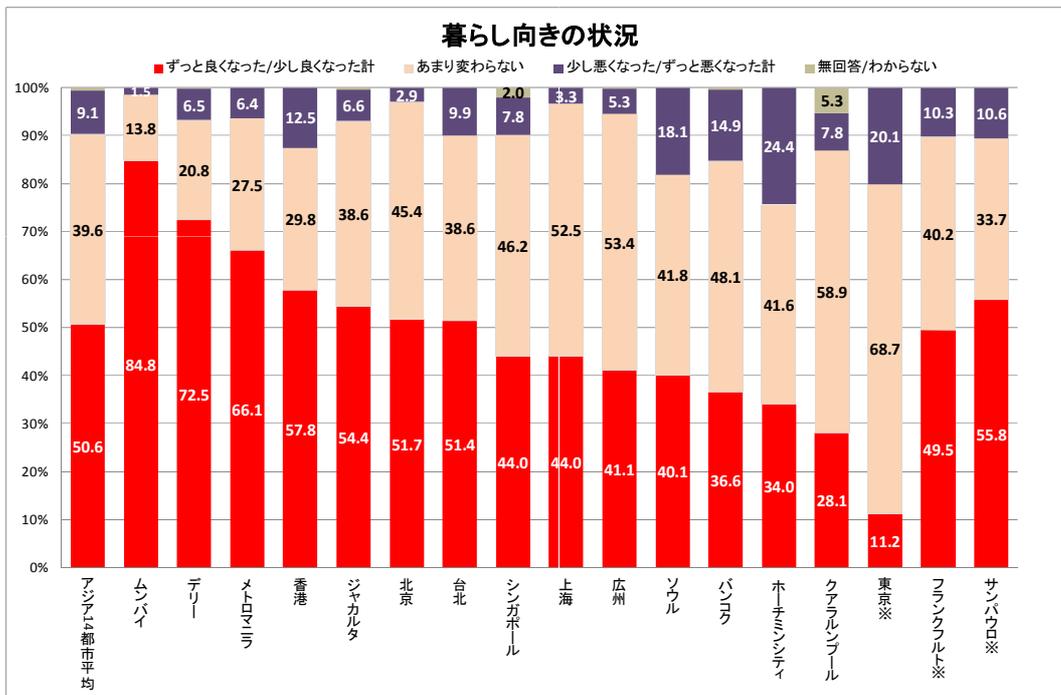
※パワー生活者とは、各都市人口の上位10%程度を占め、消費性向が高いだけでなく、積極的なライフスタイルを送り、高い情報感度を持つなど、マーケティング上重要なパワーある消費リーダー層

1. 暮らし向きの変化 & 今後の見通し

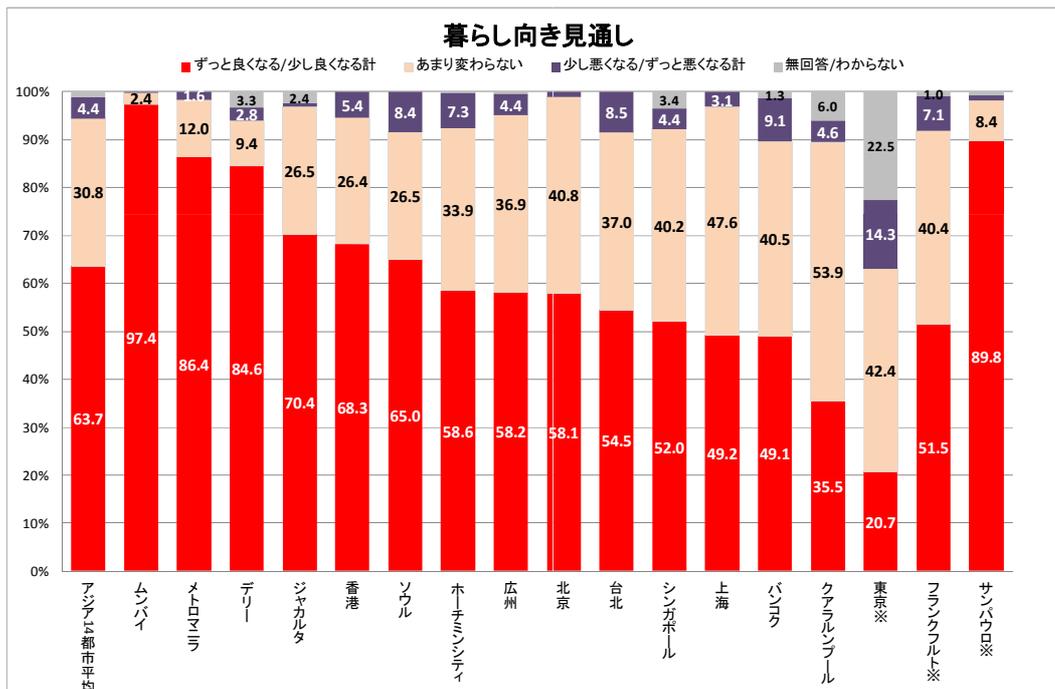
経済的な暮らし向きの変化について昨年と比較して5段階評価で聞いたところ、アジア14都市平均では「ずっと良くなった」と「良くなった」の合計は5割。都市別では14都市中7都市（ムンバイ、デリー、メトロマニラ、香港、ジャカルタ、北京、台北）で5割を超え、中でもムンバイとデリーは7割を超えている。また、今後の経済的な見通しについても聞いたところ、クアラルンプールを除く13都市で「良くなる計」がほぼ5割を超え、ムンバイ、メトロマニラ、デリーでは8割を超える結果となっている。

一方、東京の生活者は、暮らし向きの変化が「良くなった」1割、今後の見通しが「良くなる」2割程度とアジア各都市に比べるとかなり低い結果となっている。

Q:昨年の今頃と比較して、あなたの暮らしの経済的な状況はどうなっていますか(5段階)



Q:これから1年後のあなたの暮らしの経済的な見通しはいかがですか(5段階)



※参考 東京、フランクフルト、サンパウロ
 ※東京 生活定地点2012（3段階）
 現在の暮らし向き：楽になった/同じようなもの/苦しくなった
 今後の暮らし向き：良くなっていく/同じようなもの/悪くなっていく

2. お金に対する考え方

お金についてあてはまる考え方などについて聞いたところ、アジア14都市平均のトップ5は、1位「毎月決まった額を貯金（56.7%）」、2位「世の中はすべて金で決まることが多い（39.4%）」、3位「お金は命の次に大事なものの（37.4%）」、4位「金融商品の良し悪しについて、自分なりに判断できる（32.4%）」、5位「クレジットカードを使うことに抵抗はない（32.3%）」。

都市別に見ると、「貯金」は北京以外の13都市で1位か2位で、「世の中お金で決まることが多い」は全14都市でトップ5に入っておりこの2つは全都市共通と言える。3位以降は都市によって傾向が異なる。ちなみに東京の1位は「自分がもらう年金に不安を感じる（75.1%）」で、2位以下を約25%以上引き離す結果。

Q:「お金」について、あなたご自身にあてはまるものをいくつでも選んでください(複数回答/選択肢16)

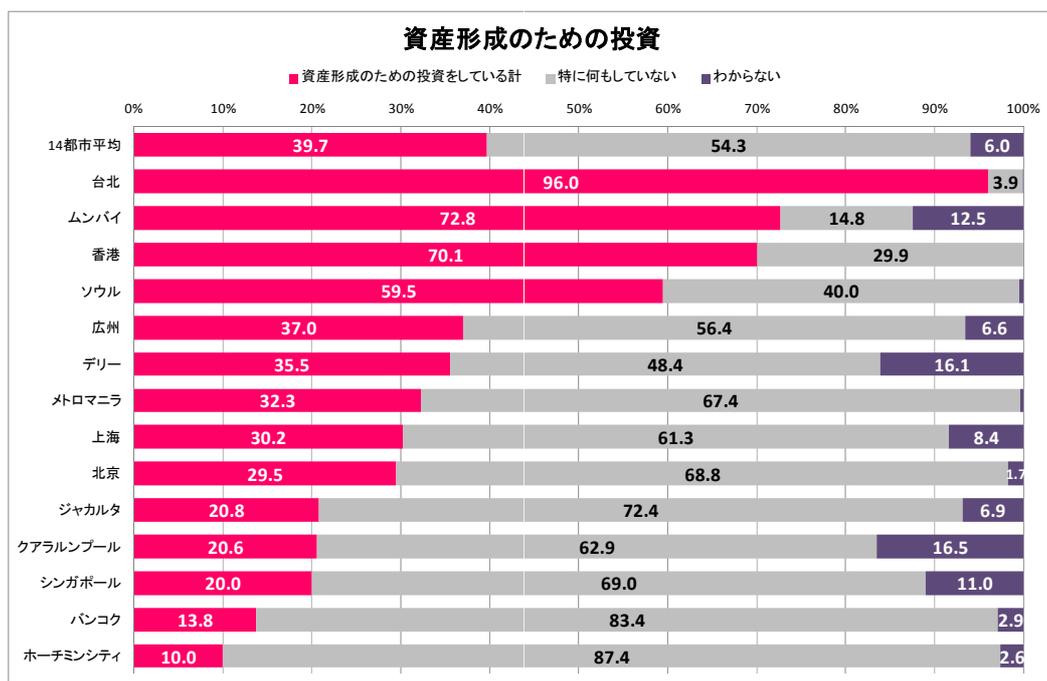
トップ5をハッチング (%)

| | 毎月、決まった額の貯金をしている | 世の中はすべて金で決まることが多い | お金は命の次に大事なものだと思う | 金融商品の良し悪しについて、自分なりに判断できる | クレジットカードを使うことに抵抗はない | いろいろな投資情報に関心がある | お金についてあれこれいうのは、品のいいことではない | 自分がもらう年金に、不安を感じる | 金利の動向には敏感な方だ | 金融機関や金融商品は目的に応じて使い分けている | 利益が少なくても危険が少ない金融機関・商品を利用したい | 銀行や保険の金融商品で損をしても、自分の責任だと思う | 外国の金融機関や金融商品を利用することに抵抗はない | 日常的にデビットカード/電子マネーを使っている | 住宅ローンの支払いがある | 住宅ローン以外のまとまった借金をすることに抵抗はない |
|----------|------------------|-------------------|------------------|--------------------------|---------------------|-----------------|---------------------------|------------------|--------------|-------------------------|-----------------------------|----------------------------|---------------------------|-------------------------|--------------|----------------------------|
| 14都市平均 | ①56.7 | ②39.4 | ③37.4 | ④32.4 | ⑤32.3 | ⑥29.5 | ⑦25.1 | ⑧24.3 | ⑨21.7 | ⑩19.9 | ⑪17.5 | ⑫16.9 | ⑬16.7 | ⑭15.1 | ⑮9.9 | ⑯8.6 |
| 香港 | ②69.4 | ③48.6 | 25.3 | 27.6 | ①70.5 | ⑤34.5 | 26.0 | ④47.8 | 25.6 | 28.4 | 32.1 | 34.5 | 21.4 | 34.3 | 17.6 | 5.9 |
| 台北 | ②68.5 | ⑤50.8 | 29.0 | 31.1 | ①71.8 | ③54.4 | 19.4 | ④52.4 | 38.9 | 47.1 | 39.4 | 39.8 | 44.3 | 31.4 | 21.9 | 6.8 |
| ソウル | ①66.9 | ③46.9 | 27.5 | ②48.3 | ⑤44.1 | 41.1 | 7.6 | 39.1 | 41.8 | 39.1 | ④44.4 | 25.1 | 22.1 | 37.4 | 14.4 | 10.8 |
| シンガポール | ①64.6 | ③28.4 | 20.0 | 17.2 | ②36.4 | 15.4 | 15.8 | 19.8 | 20.2 | 11.8 | 16.0 | 11.4 | 7.6 | ⑤20.4 | ④20.8 | 3.8 |
| クアラルンプール | ②34.5 | ③27.1 | ①41.1 | ④17.9 | 10.4 | 15.0 | 12.9 | ⑤15.4 | 13.9 | 6.6 | 3.4 | 12.3 | 6.0 | 2.5 | 12.8 | 9.6 |
| バンコク | ②33.8 | ③31.9 | ①36.6 | ④28.1 | 19.9 | 20.6 | ⑤22.4 | 10.8 | 11.5 | 11.1 | 15.9 | 7.6 | 11.4 | 6.6 | 10.5 | 9.4 |
| メトロマニラ | ①80.0 | ⑤23.9 | 17.8 | ④24.1 | 17.8 | ②42.1 | ③30.1 | 15.9 | 23.0 | 6.6 | 7.3 | 7.8 | 6.1 | 6.6 | 3.0 | 2.9 |
| ジャカルタ | ①59.0 | ③36.8 | ②44.3 | ④25.5 | 8.4 | 17.0 | ⑤20.9 | 10.5 | 8.8 | 13.1 | 11.8 | 4.9 | 11.9 | 3.4 | 3.3 | 5.4 |
| ホーチミンシティ | ①64.6 | ⑤34.8 | ②40.8 | ③36.4 | 8.3 | 23.5 | ④35.6 | 19.9 | 16.6 | 21.3 | 9.0 | 12.5 | 16.5 | 0.3 | 6.8 | 11.3 |
| デリー | ②60.9 | ④43.8 | ①61.1 | ③54.3 | 19.3 | 27.6 | ⑤30.4 | 21.1 | 24.3 | 23.6 | 14.6 | 10.8 | 23.3 | 19.3 | 3.8 | 12.1 |
| ムンバイ | ①85.4 | ③62.4 | ②83.4 | ⑤37.0 | 18.5 | ④38.4 | 33.9 | 13.6 | 18.8 | 10.0 | 6.1 | 11.9 | 8.8 | 12.3 | 2.1 | 2.0 |
| 上海 | ①39.7 | ④32.6 | 24.8 | ⑤28.7 | ③34.1 | 25.4 | ②37.7 | 22.4 | 16.4 | 13.9 | 14.4 | 15.1 | 11.5 | 12.1 | 7.8 | 10.8 |
| 北京 | 26.4 | ②37.2 | ④30.9 | ③33.2 | ①38.3 | 27.3 | ⑤29.6 | 22.3 | 19.2 | 22.7 | 12.8 | 20.4 | 18.6 | 4.0 | 8.7 | 13.5 |
| 広州 | ②44.3 | ③42.8 | ⑤35.5 | ④38.8 | ①55.0 | 25.7 | 25.1 | 27.8 | 24.8 | 19.9 | 17.8 | 20.7 | 20.7 | 22.6 | 9.5 | 14.8 |
| 東京※ | 29.3 | ④36.6 | 22.8 | 10.0 | ②50.0 | 8.7 | 25.3 | ①75.1 | 7.9 | 10.9 | 27.1 | 33.2 | 6.7 | ③45.5 | ⑤33.4 | 7.7 |

※東京は、生活定点2012年データ

3. 資産形成としての投資

資産形成のために行っていることについて聞いたところ（詳しい項目は次項参照）、資産形成のために何らかの投資を行っている割合がほぼ6割を超えている都市は、香港、台北、ソウル、ムンバイの4都市。残る10都市（シンガポール、クアラルンプール、バンコク、メトロマニラ、ジャカルタ、ホーチミンシティ、デリー、上海、北京、広州）は「特に何もしていない」割合が約5割を超える。



下表は資産形成のために行っている内容を表しており、各都市の1位に注目すると、大きく3つのグループに分けることができる。これは、各都市の経済発展度合いや金融商品・サービス等の多様さなどが影響していると考えられる。

- ・「株式」派：香港、台北、ソウル、シンガポール、上海、北京、広州
- ・「宝石・貴金属」派：バンコク、ジャカルタ、デリー、ムンバイ
- ・「家・マンション・建物」「土地」派：クアラルンプール、メトロマニラ、ホーチミンシティ

また、「特に何もしていない」がほぼ5割以上の10都市の多くで、「毎月決まった額の貯金をしている」や「金融商品の良し悪しについて自分なりに判断できる」がトップ5に入っていることから（P.3参照）、今後魅力的な金融商品やサービスが拡充していけば、「資産形成のための投資」が拡大する余地が大きいと言えるだろう。

Q:あなたが資産形成のために行っていることがあればお選びください(複数回答/選択肢8)

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | |
|-----------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------|----------------------|
| アジア14都市平均 | 株式 (17.8%) | 家・マンション・建物 (12.2%) | 債券 (9.8%) | 宝石・貴金属 (9.6%) | 投資信託 (5.5%) | 土地 (5.1%) | その他 (8.7%) | 特に何もしていない (54.7%) |
| 香港 | 株式 (52.5%) | 投資信託 (34.5%) | 家・マンション・建物 (14.4%) | 宝石・貴金属 (12.1%) | 債券 (11%) | 土地 (0.1%) | その他 (8.1%) | 特に何もしていない (29.9%) |
| 台北 | 株式 (63.5%) | 投資信託 (54.5%) | 家・マンション・建物 (45.4%) | 債券 (15.1%) | 宝石・貴金属 (13.3%) | 土地 (11.1%) | その他 (15.8%) | 特に何もしていない (3.9%) |
| ソウル | 株式 (31.9%) | 投資信託 (16.5%) | 家・マンション・建物 (14.5%) | 土地 (9.1%) | 債券 (5.8%) | 宝石・貴金属 (2.5%) | その他 (13.4%) | 特に何もしていない (40%) |
| シンガポール | 株式 (8.4%) | 家・マンション・建物 (4.8%) | 債券 (3.6%) | 投資信託 (2.8%) | 宝石・貴金属 (2%) | 土地 (0.6%) | その他 (6.4%) | 特に何もしていない (69%) |
| クアラルンプール | 家・マンション・建物 (10.8%) | 株式 (5.3%) | 投資信託 (4.6%) | 土地 (1.5%) | 宝石・貴金属 (0.9%) | 債券 (0.5%) | その他 (1.8%) | 特に何もしていない (62.9%) |
| バンコク | 宝石・貴金属 (7.5%) | 家・マンション・建物 (5.3%) | 土地 (4.4%) | 株式 (2%) | 投資信託 (1.8%) | 債券 (0.3%) | その他 (1.3%) | 特に何もしていない (83.4%) |
| メトロマニラ | 家・マンション・建物 (11.5%) | 宝石・貴金属 (9.4%) | 土地 (9.1%) | 株式 (3.3%) | 投資信託 (1.4%) | 債券 (0.9%) | その他 (9%) | 特に何もしていない (67.4%) |
| ジャカルタ | 宝石・貴金属 (8.5%) | 土地 (5.4%) | 家・マンション・建物 (5%) | 投資信託 (0.3%) | 株式 (0.1%) | 債券 (0.1%) | その他 (4.9%) | 特に何もしていない (72.4%) |
| ホーチミンシティ | 土地 (6.1%) | 宝石・貴金属 (3%) | 家・マンション・建物 (1.8%) | 株式 (1.6%) | 債券 (0.4%) | 投資信託 (0.3%) | その他 (1.5%) | 特に何もしていない (87.4%) |
| デリー | 宝石・貴金属 (12.6%) | 土地 (9.8%) | 投資信託 (7.9%) | 債券 (5.8%) | 株式 (5.5%) | 家・マンション・建物 (4.8%) | その他 (16.6%) | 特に何もしていない (48.4%) |
| ムンバイ | 宝石・貴金属 (58.4%) | 家・マンション・建物 (15.3%) | 土地 (14.1%) | 投資信託 (8%) | 株式 (5.4%) | 債券 (3.5%) | その他 (36.4%) | 特に何もしていない (14.8%) |
| 上海 | 株式 (23.3%) | 投資信託 (13.5%) | 債券 (12%) | 宝石・貴金属 (12%) | 家・マンション・建物 (0.9%) | 土地 (0.1%) | その他 (2.9%) | 特に何もしていない (61.3%) |
| 北京 | 株式 (19.8%) | 投資信託 (13.9%) | 債券 (6.8%) | 宝石・貴金属 (1.9%) | 家・マンション・建物 (1.2%) | 土地 (0%) | その他 (0.7%) | 特に何もしていない (68.8%) |
| 広州 | 株式 (26.2%) | 債券 (11.2%) | 投資信託 (10.4%) | 家・マンション・建物 (1.7%) | 宝石・貴金属 (0.6%) | 土地 (0.4%) | その他 (2.4%) | 特に何もしていない (56.4%) |

<参考>

中国3都市とインド2都市について、各都市の全体とパワー生活者（高収入層）を比較したところ、パワー生活者の方が資産形成のための投資に積極的であることが分かる。

インド2都市では、都市全体・パワー生活者共に「宝石・貴金属」への投資が高いが、2位に違いが見られ、都市全体では「土地」「家・マンション」、パワー生活者は「投資信託」となっている。

中国3都市では、都市全体・パワー生活者共に「株式」「投資信託」「債券」がトップ3に入り同じ傾向を示している。また、数年前まで過熱する不動産投資の報道が多く見られたが、現在は沈静化している様子が伺える。

| | | | | | | | | | |
|------|--------|-------------------|-----------------------|---------------------|----------------------|----------------------|-----------------------|----------------|----------------------|
| デリー | 全体 | 宝石・貴金属 (12.6%) | 土地 (9.8%) | 投資信託 (7.9%) | 債券 (5.8%) | 株式 (5.5%) | 家・マンション・建物 (4.8%) | その他 (16.6%) | 特に何もしていない (48.4%) |
| | パワー生活者 | 宝石・貴金属 (48.2%) | 投資信託 (27.2%) | 債券 (24.4%) | 株式 (18.2%) | 土地 (16.4%) | 家・マンション・建物 (14.4%) | その他 (8%) | 特に何もしていない (21.6%) |
| ムンバイ | 全体 | 宝石・貴金属 (58.4%) | 家・マンション・建物 (15.3%) | 土地 (14.1%) | 投資信託 (8%) | 株式 (5.4%) | 債券 (3.5%) | その他 (36.4%) | 特に何もしていない (14.8%) |
| | パワー生活者 | 宝石・貴金属 (80.4%) | 投資信託 (50.4%) | 家・マンション・建物 (33%) | 土地 (28.2%) | 株式 (26.6%) | 債券 (14%) | その他 (21.2%) | 特に何もしていない (2.2%) |
| 上海 | 全体 | 株式 (23.3%) | 投資信託 (13.5%) | 債券 (12%) | 宝石・貴金属 (12%) | 家・マンション・建物 (0.9%) | 土地 (0.1%) | その他 (2.9%) | 特に何もしていない (61.3%) |
| | パワー生活者 | 株式 (54.7%) | 債券 (31.1%) | 投資信託 (27%) | 家・マンション・建物 (8.6%) | 宝石・貴金属 (6.2%) | 土地 (0.8%) | その他 (4.4%) | 特に何もしていない (30%) |
| 北京 | 全体 | 株式 (19.8%) | 投資信託 (13.9%) | 債券 (6.8%) | 宝石・貴金属 (1.9%) | 家・マンション・建物 (1.2%) | 土地 (0%) | その他 (0.7%) | 特に何もしていない (68.8%) |
| | パワー生活者 | 株式 (37.1%) | 投資信託 (31.9%) | 債券 (16.3%) | 宝石・貴金属 (6.9%) | 家・マンション・建物 (5.3%) | 土地 (0.8%) | その他 (2.8%) | 特に何もしていない (38.3%) |
| 広州 | 全体 | 株式 (26.2%) | 債券 (11.2%) | 投資信託 (10.4%) | 家・マンション・建物 (1.7%) | 宝石・貴金属 (0.6%) | 土地 (0.4%) | その他 (2.4%) | 特に何もしていない (56.4%) |
| | パワー生活者 | 株式 (58%) | 債券 (33.7%) | 投資信託 (28.6%) | 家・マンション・建物 (8.1%) | 宝石・貴金属 (5.6%) | 土地 (2.3%) | その他 (4%) | 特に何もしていない (25.1%) |

パワー生活者とは…

Global HABIT調査では、中国とインドのみ一般的なサンプルとは別に、パワー生活者を追加しています。

パワー生活者とは、各都市人口の上位10%程度を占め、消費性向が高いだけでなく、積極的なライフスタイルを送り、高い情報感度を持つなど、マーケティング上重要なパワーある消費リーダー層と位置付けています。

*上海/北京/広州については、「中国パワー生活者」(世帯月収15,000元以上、25~54才の男女1,800名)を追加

*デリー/ムンバイについては、「インドパワー生活者」(SEC A2以上、世帯月収40,000ルピー以上、25~54才の男女1,000名)を追加

<第7回レポート 調査概要>

【調査都市】 14都市

香港、台北、ソウル、シンガポール、クアラルンプール、バンコク、マニラ、ジャカルタ、ホーチミンシティ、デリー、ムンバイ、北京、上海、広州

※東京(生活定点2012年調査データ)

【調査対象】 15-54歳男女

【サンプル数】 10,932名 ※東京は除く

【調査時期】 2012年5月下旬~8月

博報堂のグローバル生活者調査

Global H A B I T[®]

Global H A B I Tは、2000年から世界の主要34都市で毎年実施している博報堂オリジナルの生活者調査のデータベースです。都市間での比較はもちろん、同一都市の時系列比較も可能です。Global H A B I T調査では、「同一の生活者」(シングルソース)に、ライフスタイル、価値観からメディア接触、購入態度、様々なカテゴリーのブランド使用状況や意識を聞いています。そのため、ブランドユーザーはもちろん、意識レベルでのブランド支持者(購入意向者・好意者・ファン等)の分析が可能です。

<「Global H A B I T 2012」調査概要>

調査都市: 中国(上海/北京/広州)、香港、台湾(台北)、タイ(バンコク)、韓国(ソウル)、シンガポール、マレーシア(クアラルンプール)、フィリピン(マニラ)、インドネシア(ジャカルタ)、ベトナム(ホーチミンシティ)、インド(デリー、ムンバイ)、ドイツ(フランクフルト)、ブラジル(サンパウロ)

*中国(大連/瀋陽/武漢/成都/杭州/寧波/西安/福州)、オーストラリア(シドニー)、ドイツ(ベルリン)、フランス(パリ)、イタリア(ミラノ)、スペイン(マドリッド)、アメリカ(ニューヨーク、ロサンゼルス、シカゴ)、イギリス(ロンドン)、ロシア(モスクワ)、は2011年以前に調査。

調査対象: 15~54才男女で各都市500~800名

*上海/北京/広州については、「中国パワー生活者」(世帯月収15,000元以上、25~54才の男女1,800名)を追加

*デリー/ムンバイについては、「インドパワー生活者」(SEC A2以上、世帯月収40,000ルピー以上、25~54才の男女1,000名)を追加

サンプルは、世帯収入によってスクリーニングされた各都市の中上位収入層(都市人口の50~90%程度)が対象

調査時期: 2012年5月下旬~8月上旬

調査方法: 訪問面接(香港・台湾・韓国以外のアジア、ドイツ、ブラジル)
会場での個人面接(香港・台湾・韓国)

主要調査項目(※一部の項目はアジア・中国のみ):

<デモグラフィック / ライフスタイル>

- デモグラフィック ●ライフスタイル ●環境意識 ●カントリーイメージ ●メディア/情報接触
- 買い物 ●趣味 ●スポーツ ●耐久財所有 ●カテゴリー知覚 ●旅行 ●住居

<商品・サービスの使用状況>

- 保険 ●クレジットカード ●コンビニエンスストア ●エアライン ●自家用車 ●二輪車 ●AV製品
- 家電製品 ●携帯電話/スマートフォン ●PC/プリンタ ●デジタルカメラ/デジタルビデオカメラ
- 複写機 ●時計 ●TVゲーム ●アルコール/非アルコール飲料 ●食品(インスタント食品、菓子)
- トイレットリー ●化粧品 ●パーソナルケア商品 ●生理用品/紙オムツ

本件に関するお問合せ

博報堂

広報室

大野・尾高

Tel:03-6441-6161

博報堂

研究開発局

高月

Tel:03-6441-6153